

## 7月18日ブリーフィング 概要

1. 日時 7月18日(水) 18:30~19:25

2. 場所 経済産業省別館3階第4特別会議室

3. 対応者 森山原子力災害対策監、小林耐震安全審査室長

4. 主な質疑

(共同通信) 関西電力への指示文書において、「現地の直接確認」とは、トレンチで確認するということか。

→実際にモノを見るということ。露頭、ピット等、まずは事業者に検討してもらい、意見聴取会で専門家の意見を聞きながら、妥当性を検証したい。

(共同通信) 事業者は、シーム、破碎帯等のワードを用いて説明しているが、これらは断層ということか。

→おおむねそういう理解で結構であるが、断層はその活動に伴ってずれるものである。破碎帯は、節理など断層活動以外でできることもある。

(共同通信) 関西電力への指示を「速やかに」として期限を切っていないのはなぜか。

→月末の意見聴取会では議論したいと思っている。志賀原発については、昨日の意見聴取会でのコメントを踏まえて、周辺の断層との関連性を保安院として確認しておきたいと考え、少し早めにもらえるように期限を切った。

(共同通信) 周辺の断層との関連性とは、昨日の意見聴取会でコメントのあった福浦断層などの受動変位を考えているのか。

→福浦断層については、耐震バックチェックにおいて耐震設計上考慮する活断層ではないと判断しているが、過去の評価内容も含め、確認していく。

(共同通信) 今泉委員から富来川南岸断層についても言及があったが、これも関連性を検討するのか。

→見ていく必要があると考えている。

(朝 日) 今回の調査と大飯再稼働の関連性はあるか。

→保安院としての考え(耐震バックチェックと再稼働は関係ない)に変化はない。

(朝 日) 評価するに十分なデータが無い段階で再稼働と関係ないとする考える根拠がよく分からない。

→昨日の意見聴取会においても、F-6破碎帯が活断層であるという指摘は無かった。事業者からトレンチの写真等の性状を確認するためのデータが十分提供されなかったことを踏まえて、実際に確認するしかない旨の指摘を受けたと認識している。

(朝 日) 今泉委員から、横ずれ断層の可能性についての示唆があった点についてはどう考えているか。

→今ある情報では活断層の是非を判断するに十分ではないことの指摘であったととらえている。

(朝 日) 再調査はいつ頃までに終わるのか。

→速やかにやる必要があると考えているが、内容次第によっては時間を要するものもある。まずは事業者に調査計画を提出してもらい、その内容を意見聴取会でしっかりと確認していくことが重要であると考えている。

(N H K) 関西電力への指示文書中に「念のため」とある。稼働に影響は無いとする根拠は何か。

→まずは、これまでの当院の判断に問題があったとは考えていない。昨日の意見聴取会においても、F-6 破砕帯が活断層である可能性は無いという意見が多かった。しかし、活断層であることを否定する材料が十分でない指摘を重く受け止め、本日の指示に踏み切った。

(福井テレビ) これまで安全審査で提出した資料を出し渋った関西電力にこういった調査の指示をしても、まともに調査結果は出てこないことが懸念される。国が直接調査をしないのか。

→まずは事業者に地質調査を実施してもらい、保安院としては、専門家に同行してもらい、現地調査を実施し、事業者の調査内容の妥当性を検証する。

(中日新聞) 志賀も現地調査をするか。

→やっつけていかなければならないと考えている。

(中日新聞) 関西電力への指示に、F-6 破砕帯の活動性は無し、S-1 破砕帯の活動性はある可能性について言及されているが、どちらの破砕帯の活動可能性が高いと考えるか。

→調査前なので、コメントは差し控えたい。

(N H K) 福浦断層は、自ら動く可能性も含めて調査するのか。

→福浦断層を含め、富来川南岸断層、兜岩断層、山川断層等、耐震バックチェックでその活動性を評価しなかった断層の活動性も含めて見るべきという指摘であったと認識している。

(N H K) 志賀の敷地内には、S-1 だけでなく、S-2~8 があるが、これらの破砕帯についても確認していくのか。

→昨日の意見聴取会では、S-1 破砕帯のみ議論し、その調査の必要性が問われたことを踏まえ、まずはS-1 破砕帯について確認していく。

(時事通信) 志賀は活動年代を明確にすべきとある一方、大飯には無いのはなぜか。

→昨日の意見聴取会での指摘を忠実に例示したものである。大飯の文書に直接的には書いていないが、当然活動年代も見る。

(時事通信) 志賀はこの調査が終わるまでは再稼働しないのか。

→S Tの評価も含め、再稼働の判断をするのは難しいと思う。

(共同通信) 冒頭の説明で枝野大臣から保安院に対して、耐震バックチェックの内容を確認するよう指示があったということだが、S-1 のみということが良いか。

→志賀の耐震バックチェック中間評価において、S-1 は十分に引き上げていなかった。

(エ ネ 環) 2サイト以外への水平展開は考えているか。

→7月3日の意見聴取会を皮切りに全国の発電所敷地内の地質構造について順次チェックを始めている。

(産経新聞) この調査指示を受けた報告内容について、どういう検証をいつまでやるのか。

→担当者からの聞き取りが基本となる。検証には数週間を要するものと考えている。

(中日新聞) S-1は1号直下にあるが、この破砕帯の評価は1号の再稼働にのみ影響を与えるのか。また、2号S Tに関する現地調査の工程に影響はあるか。

→1、2号共通の課題と認識。S Tは安全対策の妥当性を確認するものであり、耐震バックチェックとは別である。順次実施する。

(共同通信) 大臣指示とは何か。

→耐震バックチェックでは、活断層の評価を第一としていた。これまでの安全審査でしっかりと見ていたという認識のもと、見るべきポイントを絞った。その際に敷地内断層を審議のポイントにしなかった。

(共同通信) 地盤の安定性は中間評価で見ているが、シームを弱面と見ているだけで、安全審査の手引きで述べられている直上に建ててはいけないとされていることは認識していたか。

→認識していた。審議のポイントとして、対象の絞り方に問題があると考えている。大臣からの指示を踏まえ、確認する。

(北 海 道) 今回の調査指示は、保安院単独の判断か、大臣の判断か。

→昨日の意見聴取会でのやりとりを踏まえた保安院の判断を今朝、大臣に報告した。

(北 海 道) 大飯再稼働に係る考え方も大臣に報告したのか。

→昨日の意見聴取会でのやりとりとともに報告し、同意を得ている。

(読 売) 保安院として、どこまで見れば判断できると考えているか。

→昨日の意見聴取会でも委員から同主旨の発言があり、保安院に課せられた課題と捉えている。事業者による調査とその検証作業と同時並行で検討を進めていきたい。

(読売) 耐震バックチェックの見直しはするということであったが、過去の安全審査の妥当性については検証しないのか。

→耐震バックチェック自体が、許可後に得られた知見を踏まえて見直すというものである。審査はその時々知見をもって安全性を評価しているものであり、現時点で検証することは考えていない。

(東京新聞) 調査の結果、活断層となったらどうするのか。

→その影響を評価することになる。